

再編整備にかかる検討課題と対応方針

【検討課題 1】

◇大野東高校情報・建設科 建設コースについて

【対応方針】

- ・ 大野東高校情報・建設科建設コースは、生徒数の減少に伴い小規模化が進んでおり、卒業生の進路をみても、直近3年間で、学科と関連のある業種（建設業）に就いた生徒数は、毎年2～3人と少なく、今後もコースとして存続させることは困難。
- ・ しかし、建設業が奥越地区の主要産業であることや、土木関連の学習機会を確保する観点から、新高校の工業科において、一定の土木関連の科目を取り入れるなど、カリキュラム編成において配慮する。

【検討課題 2】

◇新高校における生活福祉科（仮称）の在り方について

- ・ 調理師養成課程の設置等

【対応方針】

- ・ 調理師養成課程を設置することにより、国家資格を取得できるメリットはあるものの、資格取得のために相当の時間数を取らなければならない、他の分野の学習を行う余裕が少なくなるというデメリットが生じる。
- ・ 家庭学科については、食や被服等の様々な内容を取り入れることで、教育効果が高めることができると考えられる。
- ・ 今回の専門部会での検討結果も踏まえ、調理師養成課程は設置せず、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、興味・関心に応じた専門科目を選択できる体制を整備することとしたい。

【検討課題 3】

◇勝山高校情報コースの在り方について

【対応方針】

- ・ 再編整備計画では、勝山高校普通科に、高度な情報科学学習を行い理工系・情報系大学への進学を目指す「情報コース」を設置することとしている。
- ・ 今回の専門部会の検討結果を踏まえ、生徒募集に当たって特別なコース設定は行わず、2年次からの類型分けにおいて、生徒の進路志望状況等に応じたコース設定を検討する。

【検討課題 4】

◇奥越地区の県立高校の募集定員の在り方について

【対応方針】

- ・ 再編整備計画では、再編後の各校の1学年当たりの規模について、3校とも5学級としている。これは、高問協答申に基づき、教育効果向上を図る観点から、各学校において適正規模を確保するためである。
- ・ また、併せて、今回の再編により勝山市内の高校が1校になるため、地元の生徒の通学等についても考慮した。
- ・ 各学校の定員数については、これまでも中学校卒業生数の推移見込みや、中学生の進路志望状況等を踏まえて決定しており、今後の定員数の決定に当たっても、こうしたことを十分考慮していきたい。